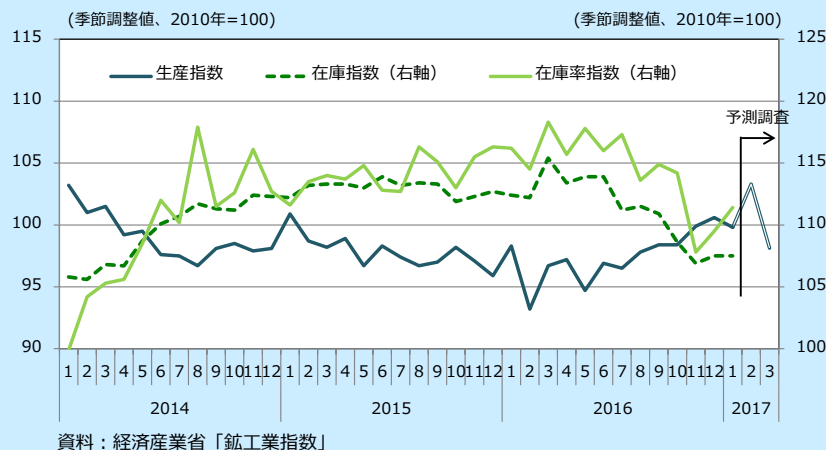


日本：鉱工業生産指数（2017年1月）

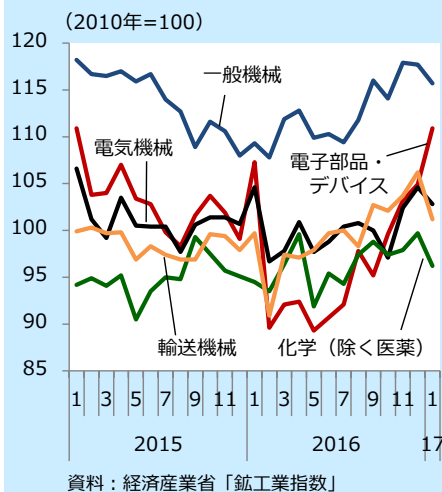
—好調な電デバを除き生産回復に一服感

MRI Daily Economic Points
February 28, 2017

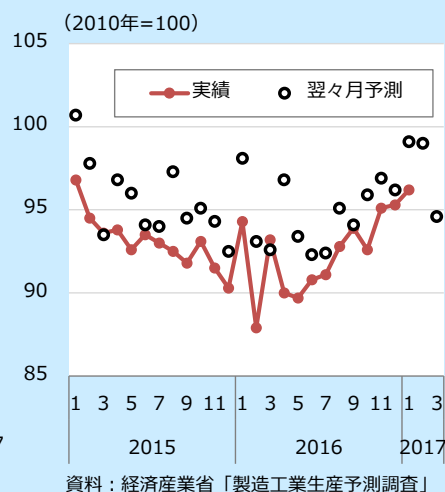
鉱工業生産／在庫指数



業種別の生産指数



生産予測調査の予測と実績



評価ポイント

2017年1月の結果

- 17年1月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲0.8%と6か月ぶりに低下した。全体としては小幅の低下にとどまったが、業種別の内訳をみると、電子部品・デバイスが大幅に上昇した一方で、全15業種中12業種でマイナスとなった。
- 輸送機械の生産指数は、同▲4.7%と3ヶ月ぶりの低下となった。16年11月まで上昇基調にあった出荷指数も2ヶ月連続で低下している。米国向け自動車輸出が16年末の増加の反動もあり1月は減少に転じており、生産調整が行われた可能性がある。化学は、美容液やファンデーションなどの化粧品の生産が減少しており、同▲3.5%の低下。インバウンド需要向けに生産が増加してきたが、足元は伸びが一服している。
- 一方、電子部品・デバイスは、世界的な需要増加を受けて16年半ば以降に回復局面に入っており、同+5.7%と4ヶ月連続の上昇。スマートフォンなどの需要増加を背景に、中・小型の液晶素子(同+7.4%)が増加したほか、モス型半導体のメモリ(同+25.3%)やCCD(+6.4%)も好調を維持している。
- 在庫指数は、輸送機械などで増加した一方、一般機械などで減少し、全体としては、前月から横ばいとなった。在庫水準は低位で推移している。
- 製造工業生産予測調査によると、2月は前月比+3.5%と上昇するものの、3月は同▲5.0%と低下が見込まれている。過去の予測指数と実現値をみると、予測指数を上回るのは稀であり、16年半ば以降に続いてきた生産回復の動きは一服する可能性が高い。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、16年半ば以降の回復局面にあるが、好調な電子部品・デバイスを除き、足元では回復に一服感がみられる。
- 生産は既に高い水準にあることから、17年半ばにかけて一旦は足踏み状態となる可能性が高い。ただし、在庫調整がほぼ完了していることを踏まえると、調整は比較的短期で浅いものとなるであろう。アジア経済の持ち直し、世界のITサイクルの改善などの前提が崩れることがリスクである。